

平川市議会議員

# 葛西はやと

みんなが笑って暮らせる社会にしたい！

市政報告はこちらを
ご参照下さい ▶

## ■ Report（戦略的一般質問のススメ）

### 1　講演概要

（1）日時
　２０２６年１０月２７日（火）　１４：１５～１５：１５

（2）場所
　津軽伝承工芸館

（3）講演内容
　戦略的一般質問のススメ

（4）講　師
　前尼崎市長　稲村和美　様

（5）主催者
　青森県市議会議長会

### 2　目　的

本研修は、議員と首長の双方を経験した講師の視点から、一般質問を政策の改善・実現につなげるための考え方と実践方法を学ぶものである。
講師は、兵庫県議会議員として約８年、尼崎市長として３期１２年活動した経験を踏まえ、質問の目的、事前準備、行政との論点の共有、継続的な検証の重要性を説明した。

### 3　内　容（要　約）

#### （0）講演概要

講演の要旨は、一般質問を単なる情報収集や意見表明で終わらせず、住民と課題を共有し、実現できない理由を明らかにして、政策を一歩ずつ前に進める機会として活用することである。また、予算の獲得を成果の終点とせず、事業実施後に住民の暮らしがどう改善したかまで確認する必要がある。

#### （1）地方議会と一般質問の基本的な考え方

**①首長と議会の役割**

地方自治は、首長と議会議員がそれぞれ住民から直接選ばれる二元代表制を基本とする。講師は、国の議院内閣制とは制度が異なることを踏まえ、首長との関係を固定的な与党・野党の構図だけで捉えず、**健全な緊張感と建設的な議論を保つことが大切**であると述べた。多様な立場の議員が議論を重ね、合意を形成することが政策の質を高める。

**②自ら学び 公の場で議論を深める**

一般質問は、知らない事実をその場で教えてもらうための時間ではない。**議員自身が調査・研究を重ねたテーマについて、行政の認識や方針を公の場で確認し、記録に残し、次の改善へつなげる場**である。ただし、既知の数値でも、住民や他の議員と問題の大きさを共有する意図がある場合には、答弁を求める意味がある。

**③議員自身の強みを生かす**

議員全員が同じ分野や同じ役割を担う必要はない。専門性、職歴、世代、地域との関係、当選回数などによって果たせる役割は異なる。新人の素朴な疑問や、経験を積んだ議員の調整力など、**それぞれの強みを政策形成に生かす**視点が示された。

#### （2）目的に応じた一般質問の組み立て方

講師は、自身の経験を基に一般質問を次の４つの方向から整理した。各類型は固定的な分類ではなく、一つの質問の中で組み合わせることもできる。**重要なのは、今回の質問で何を明らかにし、どこまで前進させるかを定めること**である。

**①情報を確認し 課題認識を共有する質問**

人口や児童数の変化、財政負担などを答弁で明らかにし、住民や議会全体が課題を共有するための質問である。
例えば、児童数の１０年間の減少を確認することで学校の将来を考える材料とする。金利上昇が地方債の利払いに与える影響なども、事前に条件を整理した上で金額として示すと、財政への影響が伝わりやすくなる。単に数字を聞くのではなく、その数字から何を議論するかを明確にする。



平川市議会議員

# 葛西はやと

みんなが笑って暮らせる社会にしたい！

市政報告はこちらを
ご参照下さい ▶

## ■ Report（戦略的一般質問のススメ）

②自らの意見や立場を明らかにする質問

直ちに実現する条件が整っていない課題でも、議員の考えを示し、行政の見解を確認する意味はある。ただし、講師は、意見表明にとどまる質問の多用には慎重な姿勢を示した。支持者への説明だけで終わらせず、行政との認識の違いや今後の検討条件が明らかになる問いを加えることが望ましい。

③問題を追及し 是正や見直しを促す質問

行政の矛盾や問題点を指摘し、事業の中止・変更・改善を促す質問である。
**行政内部では、いったん決めた方針を変更しにくい**場合があり、議会の指摘が立ち止まる契機となる。一方、状況の変化を踏まえて**誠実に見直そうとしている行政を責め続けると、修正を避ける姿勢を強めかねない。**責任や原因を確認するとともに、改善への判断を支えることも必要である。

④具体的な政策の実現を目指す質問

既存施策の修正、実施条件の明確化、新たな施策の導入などを目指す質問である。
特に、行政が優先課題と認識していない新規施策の実現には、必要性の根拠、財源、人員体制、実施方法などの検討が欠かせない。**一度の答弁で完結させず、実現を阻む条件を継続して確認し、次の提案につなげることが重要**である。

### （３）政策実現に向けて押さえるべき視点

①意見が一致している点と 異なる点を分ける

施策そのものに賛成か反対かという段階と、実施時期、優先順位、財源、実施方法をどうするかという段階を区別する必要がある。行政も必要性を認めている場合に、必要性だけを繰り返し訴えても議論は進まない。**どの段階に障害があるかを確認し、その解消に焦点を当てる。**

②事前のやり取りで 質問の趣旨を共有する

政策実施に関わる答弁には、首長と担当部署が組織として協議し、責任を持って答える準備が必要となる。**事前確認は各議会のルールに従い、問題意識、必要なデータ、確認したい論点を伝える機会として活用**する。講演は、**首長個人の政治的見解を問う場合と、行政組織としての実施方針を問う場合を区別して考える視点も示した。**

### （４）具体的な事例から得られる示唆

【事例１】中学校給食と学校の空調整備の優先順位

尼崎市では、中学校給食の実施を求める声と学校の空調整備を求める声があり、限られた財源の中で優先順位が課題となった。講師自身も給食の必要性を認めていたが、直ちに両方を実施することは困難であった。そこで、教育長とともに市民、保護者、教員、生徒などとの意見交換を行い、賛否の人数だけでなく、それぞれの理由や心配事を整理した。
意見交換では、食物アレルギーへの懸念、生徒の空調整備への要望、部活動で使うグラウンドの広さなど、複数の論点が明らかになった。結果として空調整備を先行させ、その後に中学校給食を実施する方向で理解を得た。給食の方式についても、グラウンドの確保や将来の生徒数の変化などを踏まえ、センター方式を選択したと説明された。

➢質問への示唆

**「なぜ必要な施策を実施しないのか」だけでなく、実施順序を決める基準、財源の見通し、当事者の意見を確認する。施設整備の方法も、利用者の生活や活動に与える影響まで比較する必要がある。**

【事例２】選択制の弁当サービスを政策目的から見直す

完全給食の実施前には、希望者が申し込む弁当サービスがあったが、利用が伸びず、１人当たりの負担も高くなった。利用促進策として、子どもに人気のあるメニューを安価に提供する案が示されたのに対し、議会からは、成長期の栄養確保や家庭環境による食生活の課題に応えるという本来の目的との整合性が問われた。こうした議論も、完全給食の必要性を共有する過程となった。

➢質問への示唆

利用件数の増加だけを成果とせず、本当に支援を必要とする子どもに届いているかを確認する。**手段の改善で対応できるのか、制度全体の見直しが必要かを問うことが重要である。**



平川市議会議員

# 葛西はやと

みんなが笑って暮らせる社会にしたい！

市政報告はこちらを
ご参照下さい ▶

## ■ Report（戦略的一般質問のススメ）

**【事例３】予算成立後の工事計画を見直す**

質疑応答では、予算が付いた工事についても、近隣住民の意見や議会での議論を受け、再検討によって別の方法へ変更した事例が紹介された。住民の声と議会の働きかけが計画変更につながった。

**➢質問への示唆**

予算成立を理由に既定方針を維持するのではなく、安全性、住民への影響、代替案の有無を検討し、**必要な場合には変更する余地を確保する。**

**①質疑応答で示された議会への公平な対応**

「首長が実現したい政策について、議会側に質問してほしいと思うことや、働きかけることはあったか」との趣旨の質問に対し、講師は、どの会派にも同じ答弁を行い、特定の会派だけに先行して情報を伝えることはしなかったと説明した。**政策を進める際にも、議会への情報提供の公平性を保つ姿勢が示された。**

### （５）具体的な事例から得られる示唆

以下は、講師が平川市の施策を評価したものではないが、講演の考え方を平川市議会での活動に生かすために提案するものである。

**①質問前に 到達目標と根拠を整理する**

各テーマについて、住民が困っていること、政策の目的、現状を示す数値、行政との認識の一致点・相違点を整理する。その上で、今回は実態把握、検討着手、実施時期の提示、効果検証のどこまで求めるかを決める。視察事例は、人口規模、財政状況、地域特性、既存サービスとの違いを比較し、当地で導入する場合の条件を示して提案する。

**②実施できない理由を具体的に尋ねる**

「検討する」「財源が厳しい」との答弁を受けた際は、障害が必要性の認識、財源、優先順位、人員、施設、関係機関との調整のどこにあるかを確認する。人事や組織編成は執行部の権限を尊重しつつ、必要な業務量、専門性、実施体制の見通しを問う。年度替わりの体制整備や予算編成も踏まえて、次に確認する時期を設定する。

**③地域課題ごとの質問例**

屋内遊び場の整備では、「他市と同じ施設を設けるべき」とする前に、対象年齢、冬季の利用ニーズ、既存施設で対応できない機能、運営人員と継続経費を確認する。その上で、既存施設の活用と新規整備を比較し、調査・検討の進め方を問う。

ＡＩデマンド交通では、運行開始や利用者数だけでなく、通院・買物の移動確保、予約のしやすさ、利用できていない人の理由、費用と効果を確認する。空き家対策では、相談や除却の件数に加え、危険の解消、所有者への対応、利活用への接続など、政策目的に沿った成果を問う。

**④決算と行政評価を 次の改善につなげる**

講師は、**行政が計画づくりや予算確保に力を注ぐ一方、実施後の検証が弱くなりやすいと指摘**した。計画、実行、評価、改善というＰＤＣＡを機能させるため、事業開始時に目的と評価指標を確認し、決算時には目標と実績の差、その原因、次年度の改善内容まで追う必要がある。**実施回数などの活動量と、住民の暮らしの改善という成果を区別することが重要**である。

## ４ 所 感

本研修で特に参考となったのは、行政と必要性を共有している施策であっても、実施を妨げる要因を特定しなければ政策は進まないという点である。

今後の一般質問では、住民の声と客観的な資料を基に、必要性の確認から財源、実施体制、優先順位、実施時期へと論点を深めたい。

また、議会には問題を厳しく指摘する役割とともに、行政が適切に方針を修正できる環境をつくる役割がある。

**予算が付いたことだけで成果とせず、事業が住民生活の改善につながったかを継続して確認し、一般質問、予算審査、決算審査をつなげた政策提言に取り組みたい。**

以 上